

# 定通振会報

長野県松本筑摩高等学校

定通振興会報

令和4年(2022年)

2月17日発行 第52号

## 未来に繋がる今を生きる

教育振興会会長 平井 紀子

北アルプスの山々の雪化粧が美しく、ここ樽木野の地に吹く北風の厳しさの中にも清々しさを感じる今日この頃、皆様におかれましては日頃より教育振興会の活動および学校運営等にご協力いただきありがとうございます。

昨年度に続き、コロナ禍の影響により今年度も教育振興会の活動もほとんどできない状況でした。しかしながら今年度は松本筑摩高校創立50周年式典も規模を縮小し開催されご尽力いただきました同窓会ならびに関係者の方々には感謝申し上げます。

さて、かれこれ二年程に及ぶコロナ禍での生活に少しずつ慣れつつ、とは言えまだまだ感染予防には気が抜けない状態です。それでも子ども達は子ども達なりに学校生活を送ってはいますが、正直なところ、将来への不安を抱えているお子さんも少なからずいらっしゃると思います。私達大人でさえも出口の見えないトンネルの中のような気分です。だからと言って不平不満ばかり口に出しては益々気持ちも塞ぎ込んでしまうでしょう。しかしながら捉え方によっては様々な可能性を秘めているのも「今」だと思っています。

例えば今までにはなかったワーケーション等の新しい働き方、インターネット上でのビジネスの拡大やサービスの増加などにより、個が尊重され、副業を始める方や個人事業主になる方も増えています。他人との交流が苦手な人でもネット上では様々な人と繋がるのが可能になり情報も得られます。そういった繋がりの中で、自分に価値を見出し、自己肯定感を高めていくことで自信に繋がり、他人との関わりが楽しくなることもあるかもしれません。

私たち保護者のような昭和世代の人間には到底真似できないネット社会への順応性の中に、たくさんの可能性を見出すことができるのが今の子ども達ではないでしょうか。そして流動的なこれからの社会にも順応する力を身につけてほしいと願っています。

最後になりますが一日でも早いコロナ終息と皆様のご健康を願うとともに松本筑摩高校の益々のご発展をお祈り申し上げます。



## 「一日生きることは、一歩進むことでありたい」に込めた想い

校長 平林 洋一

真っ白な雪を抱く北アルプスの山並みを校舎からも見ることが出来る季節となりました。近年の温暖化に慣れてしまったせいか、今年の冬の寒さは例年よりも厳しく感じます。教育振興会会員の皆様におかれましては、日頃から本校の教育活動にご理解とご協力をたまわり、ありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症への対応が求められてから2年が経ちます。お陰様で本校はご家庭での協力やお子様の自覚ある行動により、ここまで学校全体で学びを止めることなく日々の生活を営むことができています。この場をお借りして皆様のご対応に改めて感謝申し上げます。一方、コロナ禍により昨年度に引き続き会員の皆様には「環境整備事業」「くれき野祭企画」等の事業中止をお願いせざるを得ず、学校にお越しいただけず大変残念でした。一日も早くコロナが終息し、会員の皆様がお子様の通う学び舎においても相互に交流される機会が戻ることを願ってやみません。

今年度もコロナ感染拡大防止に伴い学校生活は様々な制約を受けましたが、そうした中でもお子様は一生懸命にさまざまなことに臨まれました。時に想定外の困難に直面し気持ちがあくじけそうになっても、周りの仲間と協力しながら最後まで粘り強く取組む姿が見られました。こうした目標実現を目指し頑張る姿は周囲にも伝わり、いろんな行事終了後には参加者から自然に拍手が沸き上がる光景を何度も目にすることができ、心を温めてもらいました。本校がこの先も大切にしたいマインドです。

さらにコロナ対応のため参加者を限定した形でしたが、昨年度から延期されていた創立50周年記念式典を10月23日に実施させていただきました。記念講演会では講師のゴルゴ松本先生から「命の授業」という演題で熱く語っていただきました。講師からのメッセージやエールはお子様にとしっかりと伝わり、これからの人生の糧になることでしょう。また講演会に先立っての記念式典では、私からは物理学者の湯川秀樹さんの「一日生きることは、一歩進むことでありたい」という言葉を紹介しました。お子様が本校での様々な経験をとおして、感じ、考え、学び、次の行動の指針としてほしいこと、自分のペースで挑戦できることを増やし、その経験の積み重ねが、やがて自分自身を成長させる原動力となることを願っております。今年4月1日からは民法改正により、未成年は現行の20歳未満から18歳未満に引き下げられます。これによりお子様は今後、高校在学中に大人として位置付けられる時が訪れます。お子様には卒業後の自立した生活に向け「氾濫する情報を正しく見極めること、フェイクニュースに振り回され、自分自身や周囲の人も傷つけないこと」「共生社会の実現に向け、互いの違いを認め合えること」を意識しながら一歩ずつ進んでほしいと願っております。

本校のこれまでの50年の確かな歩みを礎に、未来を担う存在であるお子様が、一歩ずつ自分のペースで学び、その持てる可能性を引き出せるように、引き続き会員の皆様と学校が両輪となってお子様の成長を支えてまいりたいと存じます。会員の皆様におかれましては、引き続きご支援をたまわりますように重ねてお願い申し上げます。

## コロナ禍で学ぶ変化に順応できる人材を育む学び舎を目指して

午前部・午後部教頭 五明 和敏

教育振興会員の皆様におかれましては、日頃から本校の教育活動にご理解とご協力を賜り厚く感謝申し上げます。

さて、今年度においても一昨年度末からの新型コロナウイルス感染症との闘いが続き、社会活動における行動制限や価値基準に変化がみられ、新しい生活様式「ウイズコロナ」等への順応や変革が強く求められている中で、学校現場におきましてもICT等を活用した様々な新しい学びのスタイル構築が急速に進められております。

振り返れば、教育振興会の長きに渡るメイン活動である「環境整備作業」や「くれき野祭における模擬店(焼きそば店を出店)」等、様々な場面で会員の皆様方から多大なご理解とご協力をいただいております。しかしながら昨年度、今年度においては、感染拡大防止の観点からそれを中止せざるを得ませんでした。会員の皆様同士の交流の場で、生徒と共にくれき野祭を創り、盛り上げていただけた大変貴重な機会でもありました。また、年度当初実施予定の「教育振興会総会」を中止に、そして開かれた学校づくりの一環である「授業公開」等につきましても、6月と11月の年2回の実施を計画しましたが、6月は中止、11月が

保護者様のみへの公開となり、教育活動にご理解とご協力をいただく大変貴重な機会を十分に活用できませんでした。特に昨年度、今年度ご入学の生徒の保護者の皆様方におかれましては、直接的な関わり合いによりご理解とご協力をいただく機会が少なかった2年間であったかと存じます。

この間、学校教育活動は少人数教育、個に応じた生徒支援等、本校の特長を十分に活かしながら、人との直接的な触れ合いを大切に、学ぶ機会を可能な限り確保してまいりました。引き続き、ICTの活用も重視し、電子黒板の活用にも留まらない、一人一台タブレットの導入・活用等により効果的な学習形態を導入することで、変化に順応できる人材を育成することに力点を置きつつ、一層充実した多様な学びを支援してまいりたいと存じます。

結びに、この原稿依頼がありました12月下旬頃まではコロナ禍を忘れさせるほどの良好な状況でしたが、年明け後に急変、第5波を超える猛威を強く感ぜざるを得ない状況の悪化が始まっております。これまでの5回に渡る繰り返しの中で、私たちは様々な経験と教訓を得て、可能な限り最善の対応に努めていくことが必要かつ不可欠となります。学校教育においても同様にそうした対応が求められる中、振興会の皆様からはこれまで以上のご理解とご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 毎年 恒例

教育振興会副会長 赤塚 聡子

新年を迎えた時、皆さんの「恒例」は何ですか？

私は「駅伝」を見ることです。いつの頃からか、ただ走っているのを見るなんて面白くないから、「準備万端でちゃんと応援する」というスタイルに変わっていきました。

最初は箱根駅伝からでしたが、ちゃんと見るようになると、卒業した子達が元旦のニューイヤー駅伝で走る姿を見るのが楽しみに。そのうち、箱根駅伝が始まる2時間前ぐらいに、各学校のピックアップされた選手の密着番組があるので、2日は6時から見るようになりました。そして3日の総合優勝を見て、ひと段落。4日の仕事始めは、必ず朝の番組で選手・監督の感想を見てレースを振り返り、1週間後には中継アナウンサー達の奮闘の様子が番組で放映されます。

これで、やっと通常に戻るのが私の毎年の恒例です。お正月休みは駅伝一色で、どこにも行きません。仕事が始まってまでも続いている駅伝週間です。

ひとつのことをやり続けることは、本人の努力はもちろん、家族・仲間・近所のご飯屋さん・先輩・後輩・その家族、密着するテレビ関係の人たちまでもが、自分の事のように喜び、苦しみ、もしかしたら、本人以上に思うことがあるかもしれませんね。

よく聞く言葉かもしれませんが、人は一人では生きていないのです。たくさんの人に思われて、その気持ちに支えられて、自分で気づいていなくても、思っただけで応援している人が本当にたくさんいるのです。そう思うと、いつもテレビの画面で全力で応援させてもらっている私の思いも、選手たちの支えになれているのかなと自画自賛です。(笑) 来年、ぜひこんなことも踏まえて駅伝を見てみてください。全く違った見方になってこぶしを握って応援していると思いますよ。駅伝に興味がない人は、箱根駅伝スタート前の番組だけでも見てもらいたいと思います。



整備された中庭▼

## 今を楽しんで

教育振興会副会長 高畑 千恵

2021年、コロナの影響を受け、それでもようやく1年遅れで東京2020オリンピック並びにパラリンピックが開催されました。沢山の問題をかかえながらその都度修正したり、考え方や方向性の違いが浮び上がる度に多くの人力を何倍も動かさなくてはならない… もちろん、資金の面でも私達には想像もつかない世界です。

また、そこに出場する選手も試合に向けてベストな状態に調整し直さなければならないという、計り知れない努力に、頭の下がる思いです。

こうして行われたオリンピックは多くの感動を残しました。特に私が驚いたのは「13歳、真夏の大冒険」の矢西柊さんです。

オリンピック初競技のストリートでみせたのびのびとしてそれでいてダイナミックな演技に「転ばないで!」と思わず親目線でドキドキしました。競技後の素に戻った時の表情も可愛くて印象的でした。

さて、話は脱線しましたが、これは学校行事でも同じで、ただやらされているのみではなく、自らのアイデアを声に出してみませんか？ コロナ禍で色々な事が制限されている時こそ、皆さんの柔軟な才能が発揮できると思います。些細な事でも関わる事で充実し、また、卒業後に良い思い出になるような学校生活を楽しんで送ってほしいと思います。

新しくなった校名プレート▼



## 50周年を振り返り

同窓会長 小笠原 力男

本校は自然豊かなくれき野の里に、定時制・通信制のモデル校として昭和45年4月に開校し、令和2年に開校50周年を迎える事が出来ました。この間、昭和52年には全日制を開講することにより、全日制・昼間、夜間定時制・通信制と全国的にも類を見ないすべての学びの場を網羅する学校として発展してまいりました。

しかし近年の少子化に伴う社会情勢の変化により、平成20年度に全日制課程は開校以来32年の輝かしい歴史を閉じることとなってしまいました。母校松本筑摩高校が消えたわけではありません、これまでの伝統を受け継ぎ新たな多部制・単位制・通信制の学校として、多様なニーズ学びに応える場を提供してまいりました。

令和2年創立50周年記念事業を計画して参りましたが、残念ながら新型コロナウイルスの蔓延により1年遅れて本年度に規模を縮小して記念事業を行いました。

記念事業の内容は、記念誌の発行、県費で設置できない保育室・研究室・特別教室等へのエアコンの設置・校旗の補修・校名プレートの作成・中庭の整備等の事業を行いました。特にエアコンの設置・中庭の整備は、生徒が自由にのびのびと勉学に励める環境づくりを行いました。

記念講演は、ゴルゴ松本さんの『命の授業』を計画致しました。ゴルゴ松本さんは漢字を使ってギャグを交え歴史や日本語をおもしろ、おかしくお話を下さり、真面目にうなずき、感心しながらの2時間が過ぎてしまいました。

本来なら全学年の生徒に体育館での講演に参加してもらえれば良かったのですが、コロナ禍の中、密を避けなければならない関係で一部の生徒さんは、リモートでの見学になってしまいましたが、十分に講演内容が伝わったのではないかと思います。この講演が心の片すみにも残っている事があれば実行委員会としては大変うれしく思います。

50周年記念を一つの節目とし次なる節目に向け志高く更なる発展を願っております。

## 創立50周年記念式典に参加して

午前・午後部生徒会長 花岡 祐紀

10月に本校創立50周年の記念行事が行われた。前半と後半の2部構成であった。前半は、本校関係者によるお祝いの言葉を聞くものだった。自分も生徒会長として代表挨拶をやらせていただいたのだが、とても緊張してしまった。

後半は芸人のゴルゴ松本さんによる記念講演だった。ゴルゴ松本さんは各地で『命の授業』というところを行っているそうで、本校以外にも動画配信サイトや少年院でも授業が行われている。ゴルゴ松本さんの今回の講話では、自身の体を使ってやる漢字芸が生まれた理由と、漢字についての説明。それから質問の時間も設けられた。ご自身が芸人になり、数年の月日が流れても、やりたい事をやって人を笑わせたいという理由で長年情熱を注いでいるのを聞いて自分は感動した。漢字の説明は普段我々が使っている漢字がどう生まれたのか、正しい使い方を教わった。質問の時に自分は少し悩んでいることを相談する形で質問した。経験していない人物に自分の方ができると批判された時の対処法はという質問内容だ。ゴルゴ松本さんは気にするなと仰った。「知らない人が言う事よりも、自分の方が知っているのだから気にしちゃだめ。」と答えられた。自分もたしかにそうだと思う、悩みの種が無くなりとても嬉しかった。

50周年の記念式典が行われ、今まで先輩が作ってきた歴史を我々も繋ぎ新たな歴史を作っていきたいと思った。

## 創立50周年記念について

通信制生徒会副会長 内山 和葉

松本筑摩高等学校創立50周年おめでとうございます。

本来であれば50周年という大きな節目の年である昨年度、式典と講演会が行われる予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今年度に延期されました。

そのような状況の中、特別講師としてゴルゴ松本氏が講演会にお越しくださいました。

『人生は「味付け」だ』

ゴルゴ松本氏のお話の中で、私はこの言葉が一番印象に残っています。興味・趣味・味方を持って、人生の醍醐味＝生きる意味を見つけていくことはとても楽しいと思います。特に筑摩高校は、午前午後部・夜間部・通信制と多岐にわたっている為、より十人十色の人生があります。そして、人それぞれ人生に味付けをしたり、彩を加えることで、もっと多くの道が拓けるのではないかと感じさせられる講演でした。

ゴルゴ松本氏の『命の授業』で溢れるパワーをいただきました。ありがとうございました。

私は、そんな沢山の方々的人生に寄り添い愛され続ける、素敵な学校に出会うことができ、良かったです。筑摩高校の今後さらなる発展をお祈りしております。

## 保護者の課外活動

# ★★私の夢★★

今回のテーマは「私の夢」にしました。

新型コロナもなかなか終息しませんが、過去の夢を思い出すのもよし、今現在の夢を描くのもよし、追いかけるのもよし。大きくても小さくても、いくつになっても「夢」を語り合うことは素敵なことだと思います。そんな皆さんの「夢」を寄稿していただきました。

(広報委員長)

☆高校生の時、インテリアに関係することに興味を持ち、カラーコーディネイトの勉強をして職人の道へと進みました。結婚して子供を授かって、家事と子育てと自分がやれる範囲での仕事をし、子供の成長が楽しく毎日励んでいます。そして今、子供達がそれぞれの道を決断する時、私も自分がやりたい事を改めて考えさせられました。これから自分が何をしたいか、何を目標とするか模索中で、何かにチャレンジしたい気持ちがあります。令和4年新たなスタートの一步を踏み出したいと思います。

(1年次 K)

☆私の夢…この題材を前にした時、頭の中は真っ白になりました。ライフステージでいえば「中年期」の私にとって自分自身の夢はすでに卒業。今は、年老いた両親の健康や、新人看護師として悪戦苦闘の娘、そして高校生活をおくっている息子に対する期待の夢が全てです。戦争、自然災害、コロナ禍、それらのない平和な世界を夢見るのは勿論の事ですが、この場では、息子が無事に学校生活を終え、社会人となり健康で夢に向かって努力する事を惜しまない人間になってほしいと思う事が今の私の夢です。

(2年次 M)

☆コロナ禍での小さな夢、それはキャンピングカーを所有したいという夢です。リモートによる在宅勤務が増えた事もあり、仕事をする場所については多様化しています。キャンピングカーで家族と一緒に自分のお気に入りの場所に出かけ、昼間は車内ワーク、夜はそのまま家族とキャンプなんてのもいいですね。コロナ禍を逆手に取って、キャンピングカーによるライフワークの充実を夢見ています。

(1年次 O)

☆私の夢はかなり大きいです。多分多くの方が夢みていることだと思います。でもその夢を本当に実現させることが出来るのか？ 現実的には不可能かも知れませんが、でももしかして出来るかもしれません。今も世界中で多くの問題が多発しています。これを解決する道があるのでしょうか？ もしあるとしたらそれは私に一番近い家族を愛すること。そしてその愛が波紋となって広がること。私の夢は世界平和です。そんな世界が来るといいなあ！

(3年次 M)

☆私の夢？ と尋ねられると答えに詰まってしまいました。この歳になると子供の頃に抱く憧れの様なものではなく、現実の延長線上にある達成可能なものばかり思い浮かべます。

バイクに乗ってツーリングに行きたい。ネコを飼って日がな一日ゴロゴロしていたいなどありますが、まずは子供達が成長し、立派に独り立ちしてくれる日が来る事が夢であり、最大の願いです。

(1年次 A)



▲くれきの祭 体育大会にて

## 生徒の活動

### 生徒会活動を振り返って

議長 小林 愛佳

1年生の頃、先生に生徒会に誘われたことがキッカケで力を入れた生徒会活動。2年生の時は本部書記もやり、3年間代議員としても活動、そして今年度は議長を務めさせて頂きました。

文化祭、生徒総会などの様々な行事を経験しているうちに人間として成長でき、委員の方や先生方と普段より交流ができてとても楽しく、様々な事を知る充実した一年でした。

そもそもなぜ議長になったかという、一段目で少し触れたことの他に自分の人見知りを克服したいと思ったからです。結果私は人見知りを克服することができ、人と話すことが以前よりも「楽しい!」と思えるようになりました。生徒会に誘ってくれた先生にも「楽しさを教えてくれてありがとうございます!」と感謝を伝えたいです。

生徒会での思い出がありすぎて、こうして振り返って下さいと言われても上手くまとめて書けていませんが、本当に感謝と感激の1年間の生徒会活動でした。

### 1年間の通信制の生徒会活動を振り返って

通信制生徒会長 久保田 優美

今年度は、通信制生徒会にとって新たな挑戦の年でした。昨年度は、新型コロナウイルスの影響で多くの行事が中止となってしまいましたが、今年度はほとんどの行事を行うことができました。しかし、コロナ禍での開催は今まで通りとはいかず、企画内容や会場作りなど、あらゆることを一新する必要がありました。中でも大変だったのは、6月に行った運動会でした。

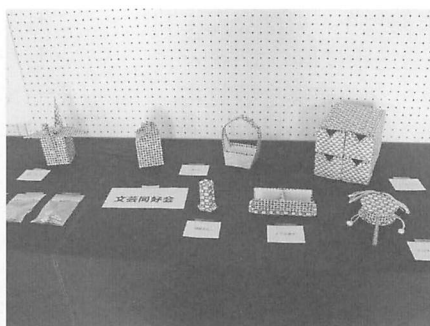
運動会は、今までドッチビーや大縄飛びなど、生徒同士が近い距離で行う種目がほとんどだったため、感染防止の観点から行うことができず、全ての種目を一から新たに考えました。しかし、人と人の距離が保て、且つルールや動作が簡単で誰でも楽しめるものを考えるのはとても大変で、決まったと思っても実際やってみると上手くいかないことも多く、またルールの説明も複雑になっていき、最終的な種目の決定までにとっても苦労しました。しかし運動会当日は大きなトラブルもなく、生徒の皆さんに楽しんで貰うことができ、それまでの苦労が全て報われた気持ちになりました。

他にもイレギュラーな状況下で上手くいかないことや大変なことはたくさんありましたが、役員全員で協力し合い、様々なことに挑戦したことは、通信制生徒会にとっても役員にとっても、これからの日々の糧となったと思います。

私は今年度で卒業となりますが、生徒会の皆には今後も挑戦を続け、より良い生徒会を作ってほしいと願っています。



▲くれきの祭 体育大会 横断幕



▲くれきの祭 作品展示



▲くれきの祭 授業展 作品展示



▲くれきの祭 体育大会にて



▲くれきの祭 体育大会にて



▲七夕飾り (書道部 + 生徒会本部)

## 令和3年度夜間部生徒会活動

生徒会顧問 有賀 正典

令和3年度の夜間部の生徒数は4年生が8名、3年生が2名、2年生が11名、そして新しく入った1年生が2名で、全生徒数が23名という少人数の構成になっています。

本年度の主な生徒会行事は、

4月…対面式、初委員会、街路清掃

5月…生徒総会

6月…前期スポーツ大会

11月…後期スポーツ大会、立ち会い演説会・役員選挙

12月…クリスマス・カードゲーム大会

以上が、夜間部生徒会で行った行事です。今年も夜間部では生徒会最大の行事である文化祭を実施しませんでした。その代わりに、何か生徒が楽しめることをやろうと生徒会役員が企画して、11月の後期スポーツ大会では、「ケイドロ」という、いわゆる鬼ごっこをやりました。鬼グループと逃げるグループに分かれて、夜間部の校舎全部を使っての鬼ごっこでしたので、生徒は校舎中を走り回り、ハードなゲームとなりました。そして12月のクリスマス・カードゲーム大会では、昨年同様にUNOとババ抜きを行いました。1～3位に賞品が出たほかに、参加者全員に参加賞としてコンビニのスイーツが配られました。いずれの行事も、少人数だからこそ実施できたものだと思います。

## 生活体験発表を経験して

夜間部 日下部 悦子

心に夢一杯の希望を抱き、松本筑摩高校夜間部に入学して早4年、この春には卒業となります。長い間心の片隅に小さな灯を点し続け、やっとの想いで高校入学の願いを人生の終盤で適えられ、充実した時を過ごす事が出来ました。その一つに、授業の一環としての生活体験発表が有ります。初めは自分の知られたい生活が世間に洗い晒し知られる様で書く事を躊躇しました。2年生の時に『私が高校生に成った訳』の文で中信大会に於いて「審査員特別賞」を頂きました。何気なく書いた文を評価して頂き嬉しく又誇らしくさえ感じたことを今も忘れません。最終学年となり、高校生としては年齢を遥かに過ぎた自分には、勉強する事の難しさ、苦しさ、解らない事への悔しさを嫌と言う程に味わっていた時期がありましたが、それを素直に感じたままに書いた『諦めることは自分に負けること』の文で中信大会で最優秀賞を頂き、長野県大会に行かせて頂きました。緊張の中で発表しましたが、思いも懸けず「優秀賞」を頂くことが出来ました。県大会という大きな舞台上、多勢の観客の皆様の前で拙い私の文を発表する貴重な体験をさせて頂くことが出来ました。僅かながら、自分でも「やれば出来る」と自信も湧き、全ての物に対して考え方が前向きに、そして自分の性格も明るく成った様に想えます。若くして逝去した母が「希望を持って生きよ」と私によく言って聞かせた言葉を改めて思い起こしています。御指導、応援して下さいました先生方、大変ありがとうございました。



▲通信制 4月 プチスクーリング



▲通信制 6月 運動会



▲通信制 10月 くれきの祭 文化発表会



▲書道部



▲漫画イラスト部作品 柳澤 理恵 (午前部)



▲夜間 12月 カードゲーム大会

## 全国大会に出場して

### 午前部 降旗 夢佳

陸上同好会の本年度の活動は、週2回の朝部活と自主練習を大切に行いました。5月の中信地区大会で3000mに出場しました。高校生になり初めての大会出場でも緊張しましたが、そこで公認記録を得て8月の東京駒沢オリンピック公園で行われた定通全国陸上大会に出場することができました。

新型コロナウイルス感染症が拡大されるなか、出場するのか辞退するのか正直すごく迷いましたが、今まで頑張ってきた努力を無駄にはしたくないという思いと、周りの方々からのサポートがあり出場を決めました。

当日は今までにない緊張を感じましたが、練習通りに頑張ろうと自分に言い聞かせてトラックに立ちました。最後の200mで抜かれてしまい、結果は4位と表彰台に上がれず、とても悔しい思いをしました。でも最後まで全力で悔いのない走りができたことは良かったなと思いました。そしてなによりコロナ禍のなかでの開催、出場できたことに感謝の気持ちでいっぱいになりました。

自分1人の力だけでは出場できなかった全国の舞台に挑戦できたことは、自分を1歩成長させ、それを自分の糧とすることができました。応援して下さった方々、家族、そしていつも優しく接して下さり、相談にものって下さる顧問の杉原先生のお陰で頑張れました。

全国での緊張感、悔しかった経験を陸上だけでなく、これから様々なことに生かしていけたらと思います。

## 令和3年度 運動部大会結果

### 全国高等学校定時制通信制体育大会

#### ●陸上競技

東京都:駒沢オリンピック公園総合運動場 (8/22～24)  
 女子3000m 降旗 夢佳 (午前部) 12分26秒26 4位  
 女子円盤投げ 住 凜華 (通信) 棄権  
 女子砲丸投げ 住 凜華 (通信) 棄権

#### ●卓球

奈良県:ならでんアリーナ (8/4～6)  
 男子個人 中村 鴻太 (通信) 1回戦敗退

#### ●バスケットボール

東京都:駒沢オリンピック公園総合運動場内体育館 (8/20～25)  
 男子 1回戦 28-108 西宮 香風 (兵庫) 1回戦敗退

#### ●バドミントン

神奈川県:小田原アリーナ (8/16～18) ※5名ともに午前部  
 男子団体 長野県選抜 (須山セルソ 和広・山本 海斗・山本 蓮) 1回戦敗退

女子団体 長野県選抜 (伊藤 凜・福井 夢華) 棄権  
 男子個人 須山セルソ 和広 2回戦敗退  
 山本 蓮 3回戦敗退 (ベスト32)  
 女子個人 伊藤 凜 2回戦敗退  
 福井 夢華 1回戦敗退

### 全国高等学校総合体育大会

#### ●新体操男子

新潟県:新潟市東総合スポーツセンター (8/21～22)  
 個人総合 18位 室賀 友祐 (午前部)

### 北信越高等学校定時制通信制総合体育大会

※新型コロナウイルス感染拡大のため中止

### 中信高等学校定時制通信制秋季体育大会

於:本校

#### ●バドミントン

男子個人 須山セルソ 和広 優勝  
 山本 蓮 2位  
 女子個人 伊藤 凜 優勝  
 伊藤 まい (午前) 3位

#### ●卓球

男子個人 中村 鴻太 優勝  
 滝沢 仁士 (午前) 2位  
 胡桃沢 和矢 (通信) 3位  
 上條 友煌 (午後) 4位

### 長野県高等学校新人体育大会

#### ●ボクシング

於:丸子修学館高校 (12月11日)  
 ライトフライ級 平林 稜琉 (午後) 1位 (認定)

## 令和3年度 文化部の活動

### ●書道部

出品した展覧会

- ・長野県高等学校書道展
- ・中信地区高等学校書道展
- ・鳥立地区芸術文化祭

出品目録

4A	村瀬 琴音	臨 董其昌 韋莊晏起詩
4D	赤羽 咲紀	臨 王鐸 行書五律五首卷 臨 董其昌
2B	武捨光士郎	篆刻 老子語 篆刻 快雪晴晴
2C	降旗 夢佳	臨 懷素 自叙帖 臨 米芾 蜀素帖
2F	桐山 莉生	臨 蒼 石鼓文
2F	待井 彩伽	臨 鄧石如 吳熙載
2G	小島 結生	臨 雁塔聖教序 臨 礼器碑

### ●写真部

第24回中信地区高校写真展

優良賞 4B 坪田 星空 「威圧」

第28回長野県高等学校写真展

入賞候補作 3B 嶋田 力久 「男なら一口で」

展示作 3B 嶋田 力久 「音」

写真部作品



「威圧」坪田 星空



「男なら一口で」嶋田 力久